



第2回英語FD懇談会 開催報告



全学教育開発機構

開催概要

- テーマ : 「福祉大学での英語教育 ―教員・学生双方の視点から―」
開催日時 : 2009年1月13日(火) 13:30-16:00
場所 : 美浜キャンパス 第4会議室
主催 : 全学教育開発機構 英語教育懇談会
出席者数 : 15名(英語教員8名、全学教育開発機構員2名、全学教務委員1名、職員4名)

プログラムの詳細

- 13:30-13:40 開会の挨拶 木戸全学教育開発機構長
13:40-14:10 講演① 竹多亮子「社会福祉学部における教育実践」
14:10-14:35 講演② 心理臨床学科2年 味水祥文「英語という言葉」
14:35-14:50 懇談
14:50-15:15 講演③ 社会福祉学科4年 加藤文嗣(英語学習体験談)
15:15-15:40 講演④ 小泉純一・内野信幸(大学での英語教育)
15:40-16:00 懇談

第2回英語FD懇談会 開催レポート

第2回目の全学教育開発機構・英語教育懇談会主催の英語FD懇談会が、平成21年1月13日(火)13時30分、美浜キャンパス研究本館棟第4会議室にて開催された。最初に、木戸全学教育開発機構長より懇談会主催者としての挨拶がなされ、引き続き参加者による自己紹介が行われた。

続いて、非常勤講師の竹多亮子先生から授業実践の事例報告がなされた。竹多先生は、本学にて長年英語教育に携わっていただいている英語教員の一人である。まず、自身の担当される社会福祉学部「フレッシュマン・イングリッシュⅠ」、「フレッシュマン・イングリッシュⅡ」での教育実践について丁寧な説明がなされた。竹多先生は、英語の四技能の向上を図ること、英語を通して様々な文化に触れさせ、学生の英語学習の動機づけをもたらすことを目標に授業運営をしており、そのために実施している様々なアクティビティや使用教材等が紹介された。また、授業における学生からの反応、学生への課題や評価方法、障害学生への配慮についても報告され、先生の英語教育に対する熱意や学生に対するきめ細やかな指導がうかがわれた。

次に、心理臨床学科2年の味水祥文さんから自身の英語学習体験が報告された。中学を卒業後ニュージーランドの高等学校に進学し、3年間英語漬けの生活を送りながら英語を習得した経験について、現地でのユニークなエピソードを交えながら紹介された。味水さんは、英語圏に一人で身を置くことで「必要に迫られて」物事を英語で考えるようになり、発話も出来るようになった。

たと自らの体験を語った。「英語がわかるようになってからはとても楽しかった」「コミュニケーションの大切さを知った」と、外国語コミュニケーションの楽しさが生き生きと伝わる報告であった。また、「自分は日本人の学生が得意とするリーディングやライティングが苦手なので、これから日本でその技能を伸ばしていきたい」と英語学習に対する今後の課題も示された。自己の学習目標を明確に語る姿が印象的であった。

休憩を挟んで、社会福祉学科4年の加藤文嗣さんから、大学での英語学習の実践報告がなされた。加藤さんは、本学で中西哲彦先生と出会い、そこから英語学習を頑張りたいという思いを持った学生の一人である。半田キャンパスにおける生涯学習センターでの英語講座を受講したり、ラジオの英会話講座を継続的に受講したり、短期の海外研修や国際交流活動などに自ら志願し参加するなど、主体的かつ積極的に英語学習に取り組んできた経験が話された。「英語を学ぶことで世の中の見方が変わ



る」「行動範囲が広がった」「英語を学んだおかげで今の自分がある」と、学生の視点から、英語学習の意義が伝えられた。また、自分が身に付けた英語力と異文化交流から学んだ経験とを、今後社会に出た際どのように活かすかといった夢についても語られた。将来への希望と若さに満ちたエネルギーな報告であった。

最後に、本学英語専任教員で英語教育懇談会のメンバーである小泉純一先生と内野

信幸先生から講演がなされた。まず、小泉先生より最近のリメディアル教育の動向について新聞記事を基に報告がなされ、最近の全国的な大学生の学力低下の現状やそれに対する様々な措置が紹介された。現在の大学には高校までに身に付けるべき能力が欠如している者が多く入学してくるが、大学として学生を受け入れた以上、責任をどのように果たしていくかが大切だと述べられた。近年の学生の質や勉強の仕方、学ぶ意欲の変化についても言及された。その上で、学生の英語学習に対する意欲を高めるための方法について、学生からの授業の感想コメントの紹介を交えながら紹介された。学生のコメントからは、「英語がこんなに楽しいと思えてよかった」「(英語の歌に関する)知識を深めたい。」「(今まで)英語は嫌いだったが、少しだけましになった」など、英語嫌いの学生が実際に英語に興味を持った様子が分かり、学生のやる気を引き出す小泉先生の力量の高さを改めて認識させられた。

続いて、内野先生からご自身の英語教育における創意工夫について報告がなされた。英語学習に対する内野先生の考えについて、先行研究やご自身の研究結果の紹介を交えながら述べられた。また、中学の教科書を音読すれば（中学３年間で学習する英文法を学習すれば）英語力は身に付く、試験には辞書の持込を認める、英語の発音はカタカナで教えるのも有効だ、などの提言が、先生の体験とともに語られた。また「訳と意味の違いも認識させたい」など、先生の英単語に対する徹底したこだわりが垣間見えるものであった。

今回のＦＤ懇談会では、本学にて英語教育に携わる英語教員の力量の高さを再認識するとともに、大学で英語を学ぶ学習意欲の高い学生のニーズを把握することが出来た。大変密度の高い報告をもとに、途中に設けた懇談の時間には、講演者の学生も交えて活発な意見交換がなされた。近年の学生の傾向や、基礎学力の著しい低下に苦慮する英語教員の声を直に伺うことも出来た。

「英語教育には色々なものが並立されていないといけない」「英語に関する雑多なことを（教材として）沢山用意するべきだ」「大学から英文学をとってはいけない。英文学や社会背景などを知らずしてどうして異文化交流が出来ようか」など、先生方のご発言からは統合的英語能力養成と外国の文化・文学等を踏まえた英語教育を組み合わせた総合的な英語教育の効果とその必要性が提示されたといえる。しかし、基礎学力の欠如した学生層が拡大した本学の現状ではそのような教育の実践は困難であることも、例えば「劇や物語などは英語教材としてとても良い題材だと思うのだが、今の学生では学力不足で普通のクラスで扱えないのが非常に残念（１０年ほど前はそれが出来た）」といった先生方の声から同時に明らかになり、今後大学として検討を要する新たな課題も提起された。

本学に相応しい教育評価（尺度）の在り方、在学生の学力の二極化とそれに即した英語教育の必要性など、全学として取組んでいくべき英語教育改革推進の課題が示唆され、本企画は非常に有益なものであったと言える。参加者からは「優秀な学生の報告を聞くことが出来て良かった」「（学生の学習体験談を聞いて）学生のこれまでの英語の学びの経験を知る必要性を感じた」といった声が多かった。次年度以降も、授業改善に繋がるような実践的なＦＤ活動として、また英語教員間の情報交換の場としてこのような英語ＦＤ懇談会を継続的に実施していきたい。

